

(別添)

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	ベトナム貧困地域における、子どもたちへの日本語教育支援事業
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人学び舎つばさ
(3) 実施期間	2018年11月1日～2019年1月31日
(4) 実施国	ベトナム社会主義共和国
(5) 活動地域	ニントアン省ファンラン市
(6) 活動概要	<p>①活動の背景： JICA は国際協力に関心のある市民、法人・団体からの寄附金「世界の人びとのための JICA 基金」を募っており、その寄附金を財源に、途上国の人びとに直接届く支援を実施している。これにより、市民の国際協力への参加を促進するとともに、貧困や飢餓に苦しむ世界の人びとを支援することを目的としている。</p> <p>当団体は、ファンラン市において、2016年に日本語学校を開校し、現地のベトナム人の日本語教師が授業を進めてきたが、教師によって教え方が異なることや、目指すべき方向性が共有できていないことなどにより、生徒の日本語の上達の遅れや、生徒が日本語習得をあきらめてしまうという問題が生じてきていた。</p> <p>②活動の目標： 教職員経験者（日本人）を現地に派遣し、日本語授業の教材と日本語指導要領を作成することで、現地の日本語教師（ベトナム人）のスキルアップを図るとともに、体系的かつ効果的な日本語指導が行えるようにする。</p> <p>また、書道やかるたなどの日本文化を体験授業を織り交ぜることで、日本語をより深く学習できる環境を整えることとする。</p>
2. 業務実施結果	
1) 実施した内容	<p>【実施内容①】教材の作成 年間 50 単元の授業について、それぞれの単元ごとに教材（問題集や例文集）を作成した。現地に派遣した教職員経験者（日本人）が、各単元ごとに、現地日本語教師（ベトナム人）と議論をしながら教材を作成した。（1 単元当たり 3 時間×50 回） また、日本語がほとんどわからない生徒への導入教材として、50 音イラストカードを作成した。</p>

なお、教材を作成・出力するためのパソコン・プリンターや、授業を効率的に進めるため、プロジェクターを導入した。

【実施内容②】体験事業の実施

日本文化を体験しながら日本語を学ぶ授業を実施した。体験分野として、習字1回、かるた3回、茶道1回を実施した。また、それぞれの体験に必要な道具を購入した。

【実施内容③】指導要領の作成

授業を進めるにあたり必要な指導方法を定めた指導要領を作成した。作成にあたっては、現地日本語教師（ベトナム人）と教職員経験者（日本人）が9回の議論を重ね、各単元ごとの指導方法を作成した。

（2）実施成果

【成果①】教材の作成

今回は高校生レベルの生徒が理解できるような、例文集・問題集を50単元分用意した。当初は日本人の教職員経験者が原案を作成し、現地の日本語教師（ベトナム人）と相談しながら作成する予定でしたが、現地日本語教師が教材の案を作成し、教職員経験者（日本人）が添削をするという形をとった。手間はかかったが、教材に対する日本語教師の理解度が高まっただけでなく、現地日本語教師の日本語の習熟度合いの把握もでき、今後、年齢や日本語の習得レベルに応じた教材を、現地日本語教師が自らの手で作成できる見通しも立った。

また、教材を作成する中で、現地日本語教師の発案で、日本語がほとんど話せない生徒用に、50音イラストカードを作成することとなり、原案の作成は現地日本語教師が主体的に行った。

【成果②】体験事業の実施

書道：生徒たちはこれまでに触れたことがない、筆や硯、半紙などに興味津々で、先生の手本に沿って、思い思いに筆をとり、絵画のイメージで文字を書いていた。漢字に慣れ親しむ手法としては有効であったと考えるが、教師の確保が課題である。継続的に取り組むためにはカリキュラムに位置付けることが最も効果的であるが、現地日本語教師が主体的に取り組めるかどうかを議論する必要がある。

茶道：美しい茶器や所作に触れることは、生徒にとっては大変興味深い体験で、書道と同様に日本文化に触れるという意味においては、とても有意義であった。書道と同様、先生確保が最大の課題であり、茶道については、現地日本語教師に委ねるのは、かなり無理があるため、日本語学校の授業の一環というよりは、当団体が計画する年数回のイベント等で、茶道に触れる機会を作ることが現実的である。

かるた：すでに日本語学校で保有していたカルタを用いて、合計3回取り組んだが、和気あいあいと楽しめる一方で、日本語の習熟度が生徒ごとにばらばらであり、まった

く理解できない生徒もいたため、様々なパターンのカルタを購入することとした。

【実施内容③】指導要領の作成

指導要領については、当初は、生徒の日本語習得レベルに応じた指導内容を包括的に取りまとめる予定であったが、想定よりも現地日本語教師の授業に対する理解度が低かったため、①で取りまとめた50単元の各授業ごとに、時間配分や教師・生徒の活動内容、留意点を取りまとめる形に変更した。その結果、かなり具体的かつ詳細な内容になったため、現地日本語教師には使い勝手の良い指導要領となった。今後、この指導要領を現地日本語教師が実際の授業で活用しつつ、自らの手でブラッシュアップしていくことが重要である。

(3) 得られた教訓など

日本語学校が開校してから、2年余の間、現地日本語教師や生徒に対しては、年数回の訪越とスカイプなどによる支援を行ってきたが、本事業を活用し、日本人の教職員経験者が、ほぼ毎日、日本語学校で教師や生徒と対面することで、教師や生徒の日本語理解度や授業への取り組む姿勢を正確に把握できたことが大きな収穫であった。

また、現地日本語教師と協働で教材と指導要領を作成できたことから、現地日本語教師にとっても自信を深め、モチベーションを高める良い機会となった。

なお、当団体としては、生徒に対して、日本語だけでなく、日本文化への理解を深めることも重要と考えているが、その取り組みを現地日本語教師にすべて任せることは事実上困難なので、現地訪問や各種イベントを通じて、日本人がサポートしていくことが肝要である。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針

今回作成した指導要領に基づき、教材を用いながら授業を進めていきつつ、指導要領と教材をより実効性のある内容に改訂していく必要がある。また、今回は高校生用の教材となっているため、生徒の日本語習得レベルに応じたものを別途作成していくことも必要となってくる。そのために、教職員経験者（日本人）が定期的に訪越し、現地日本語教師（ベトナム人）とコミュニケーションを図っていく。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

教職員経験者（日本人）が長期滞在できたことで、日本からは見えなかった学校の状況が把握できた。生徒の数が極端に少ない日があったり、時間通りに集まらない、掃除活動を含めた学校行事ができない、クラスによって授業の進み具合がバラバラなどなど、日本人にとっては「常識」と思えることも当たり前ではないことが、改めて理解できた。

また、書道や茶道については、生徒たちの食いつきが予想以上に良く、やり方次第で、かなり面白いコンテンツになるのではないかと感じた。

(2) 活動の写真



みんなの日本語

高校生バージョン

第26課～第50課



NPO 学び舎 つばさ

(現地教師発案のイラストカード)

第26課

例文:

ア: この服を買いたいんですが、読み方を教えていただけませんか。

いいですよ。

会館: どこに靴を買いた行ったらいいですか。

あア: ミさん、米酒の飲み会は準備しましたか。

ミ: はい、だいたい準備しました。

あア: ああ、まだ靴がないんですが、どこに買いた行ったらいいですか。

あア: ナイキのショップはどうですか。靴はちょっと

高いんですが、かわいいデザインなんです。

ミ: じゃ、今一掃に買いた行きますか。

あア: すみません、ちょっと。

ミ: ショップへ行く道が分からないんですが、教えていただけませんか。

あア: いいですよ。

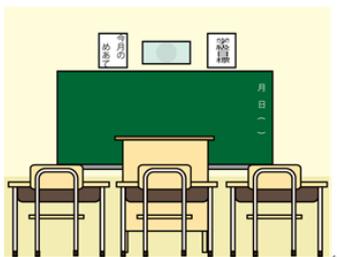
ミ: お願ひします。

(教材 (例文・問題集))

みんなの日本語

高校生バージョン指導案

第26課～第50課



NPO 学び舎 つばさ

指導案

年 月 日 () クラス ()

みんなの日本語

	教師の括弧	生徒の括弧	留意点
導入 10分	第26課の内容を振り返る。		
第26課 70分	<ul style="list-style-type: none"> 主要な単語の読み書き、説明、口頭練習、練習帳など 「～なんです。」 「～したいんですが。」 文章(会話)・本文の説明、練習Aを使って、文法事項を説明。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で説明 個人で説明 	<ul style="list-style-type: none"> 文法事項は、理解できたか、よく確認する。 多くの単語で説明する。
新課 10分	<ul style="list-style-type: none"> 会話 目標の説明の後、先生とペアさんで実践。 	<ul style="list-style-type: none"> 質問紙を使って、会話の場面をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標は、正しい理解になるよう、注意する。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 今日の授業の確認 資料の内容の下点 	<ul style="list-style-type: none"> おもしろい点は、説明する。 	

(指導要領)



(イラストカードを使った授業)



(茶道風景)



(書道風景)



(カルタ取り)

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

日本語学校を開校して2年余、当団体としては、日本語教師（ベトナム人）が主体となって授業を進め、日本からは部分的にサポートする形をとってきたが、今回の基金事業で、日本人が長期滞在できたことで、日本語教師（ベトナム人）と団体が向かうべき目標の擦り合わせができたこと、そして、必要とは理解しながら、なかなか着手できなかった指導要領や教材が、本事業で期限を限って取り組んだことで、今後の当団体の活動の基礎が未来に残る形で出来上がったことが、最大の成果でした。